

# 伝板蓋宮跡(奈良県高市郡明日香村)

でんいたぶきのみやあと

ここが皇極天皇の時代の伝板蓋宮跡とされる場所/右手に説明板が立っている



ここが乙巳の変の舞台である



「ここで復元したような高床式の大きな建物や大井戸」と記されているように、発掘調査により多くの遺構が検出されている

## 史跡 伝飛鳥板蓋宮跡

昭和四十七年四月十日指定

推古天皇から持統天皇に至る七世紀の約二〇〇年間、飛鳥地方には歴代天皇の宮が「さつ」と遺宮されたが、その遺跡はどれもまた確認されていない。そのうち皇極天皇の飛鳥板蓋宮については、この付近とする伝承があり、昭和三十四年以來、おもに橿原考古学研究所によって発掘調査が続けられてきた。

その結果、掘立柱列で囲まれた東西約二五メートル、南北約一九七メートルの長方形の区画、内部ごと、その南半では中軸線上に位置する五間×二間の門と、七間×四間の建物、北半ではここに復元したような高床式の大きな建物や大井戸など多くの遺構が検出された。また内郭の東南に接しては、九間×五間の大規模掘立柱建物（飛鳥子七ノコ大殿と仮称）を中心とする一区画があり、さらに東の某道すいには、これらの遺構を囲む外郭の柱列や石溝が南北に続いていることお明らかとなった。

建物はすべて掘立柱で、周囲に石敷があり、木間や土器などの出土遺物から、板蓋宮よりは新しい七世紀末ころの宮殿遺跡と推定されるが、下層にも遺構があり、いずれの宮であるかは、なお今後の調査でまたねはならない。

奈良県教育委員会

宮殿内郭東北部の大井戸を中心とした一画が国の史跡に指定されている/建物遺構にもとづいて、往時の建物などの状況を植栽で、柱穴をコンクリート立柱でそれぞれ明示し、建物・大井戸周囲の玉石敷は復元・整備された/東側から西方向を見たところ



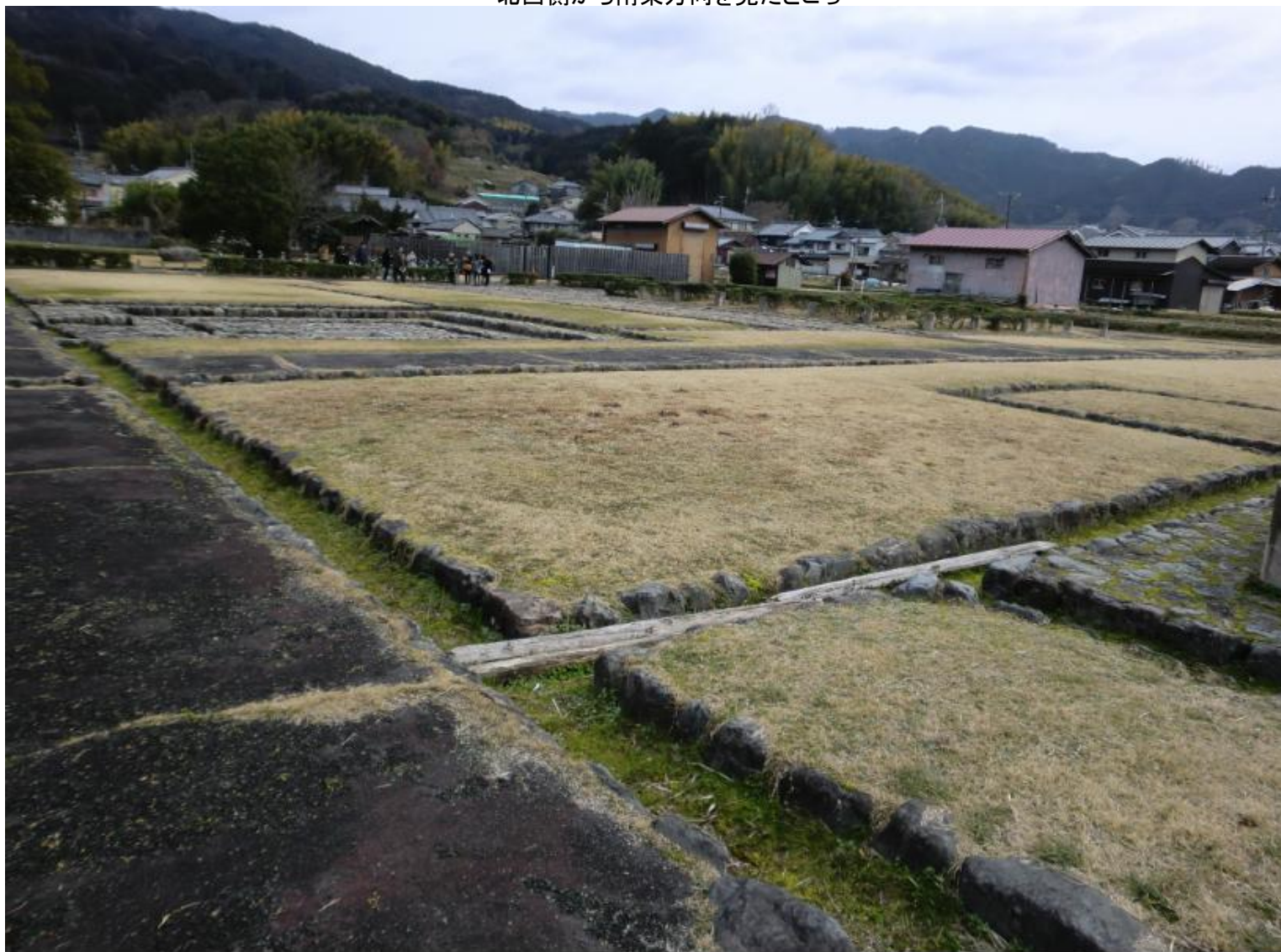
復元された石敷遺構



復元された大井戸/北側から南方向を見たところ



北西側から南東方向を見たところ



復元された高床式の掘立柱遺構/南東側から北西方向を見たところ





## 参考ホームページ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%BF%E8%93%8B%E5%AE%AE>

<http://www.asukabito.or.jp/sansaku/2008/01/post-14.html>

<http://sakuwa.com/asup6.html>

[http://www.bell.jp/pancho/travel/asuka-ji/itabukino\\_miya\\_ato.htm](http://www.bell.jp/pancho/travel/asuka-ji/itabukino_miya_ato.htm)

<http://www.asukanavi.jp/point.php?pid=21>

<http://www.asukanet.gr.jp/ASUKA2/ASUKAMIYA/itabukimiya.html>

[http://www.asukanet.gr.jp/yumedono/cont01files/cont01\\_034itabukinomiva.htm](http://www.asukanet.gr.jp/yumedono/cont01files/cont01_034itabukinomiva.htm)

